

令和2年度 学力向上指導改善プラン

三田市立八景中学校

学校教育目標		自立した目標や夢の実現に挑戦する生徒の育成 自立・夢・挑戦	
推進主体		校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、図書館教育担当を中心として推進している。	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○読書に関心を持つ生徒が多いことから、「読むこと」にとどまらず、「話すこと・聞くこと」の能力も、少しずつではあるが伸びている傾向がみられる。 ◆「書くこと」の領域においては、二極化の傾向がみられる。特に、自分の意見を具体的に書くということに課題がみられる。 ○言語についての知識・理解・技能については、おおむね定着してきている。
		算数 数学	○基本的な計算はよくできている。 ○比例や一次関数には十分に慣れしており、定着が見受けられる。しかし、反比例については、まだ不十分であり課題がある。 ◆数学的な表現を用いて説明することに課題がある。 ◆資料の傾向を的確にとらえ、表を読み取ることには課題がある。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ◆基礎基本の内容については概ね理解しているが、応用力を必要とし自分なりに論理的に考えて説明したりいうことに課題がみられる。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習態度で、真面目に取り組んでいる。ほとんどの生徒は課題に真剣に取り組むことができる。 ◆家庭での学習習慣が定着していない。日ごころ予習、復習に意欲的に取り組めるように、工夫・改善を行う必要がある。	
学 力 向 上 に 関 連 する 学 習 状 況 調 査 の 学 生 の 学 習 意 志 の 状 況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○学校の規則をよく守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけているという生徒が大多数を占めており、概ね良好である。 ◆家庭学習の時間確保とともに、計画を立てて取り組むことを習慣づける必要がある。 ◆失敗を恐れて挑戦を避け、将来の夢や目標を持っていない傾向がある。 ○困っている人がいれば助けたい、人の役に立ちたいという思いを持つ生徒が多い。 ◆読書への興味関心はあるが、それに費やす時間は少ない。	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	◆授業中は、落ち着いた真面目な学習態度で取り組んでいる。しかし、日々の復習や予習といった家庭学習の習慣化について、今後も引き続き家庭への啓発や、小中で連携した家庭学習の定着への取り組みが必要である。	
研 修 内 の 研 究 状 況	校内研究の状況	◆「生徒が主体的に取り組む学習指導」を実現させるために、めあてとふり返りを各教科で定着させ、学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導について校内研究推進体制を整備した。 ○互見授業や研究授業を積極的に行うことで、教師が互いに学びあう体制築き、校内全体で授業改善に取り組んだ。	
	校内研修の状況	○互見授業や研究授業を積極的に行うことで、教師が互いに学びあう体制築き、校内全体で授業改善に取り組んだ。	
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	◆家庭学習の定着について、継続して家庭や地域への啓発を行う。学校と家庭・地域が協働して生徒を指導、支援するために地域の教育力を活用した取り組みを進める必要がある。	
	小・中における教科連携等の状況	○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの連続性を大切にしたい取り組みを進めている。 ○出前授業に加え、新入生説明会の際に、小学6年生を対象とした体験授業を行った。	
4月			
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)
		○すべての生徒に分かりやすい学習指導の工夫、授業改善	○年間3回以上の研究授業・研究討議を実施する。 ○テーマを設定した互見授業を実施する。 ○ICT機器を活用した授業をすべての教科で年間2回以上実施する。
		○家庭との連携による家庭学習の習慣化と生活習慣の改善	○100%の生徒が、平日の家庭学習時間30分以上を達成する。 ○100%の生徒が、携帯・スマホ、ゲーム等の使用時間2時間以内を達成する。
		○学習相談・教育相談の充実	○毎学期に教育相談週間を設ける。 ○学校評価アンケートにおいて、学習相談・教育相談に対する肯定的評価を昨年度より5ポイント向上させる。
		○読書活動の充実	○読書時間一日30分以上60%以上を達成する。 ○図書館の貸出冊数が生徒数×3冊以上を達成する。
		○不登校支援の充実	○不登校生徒や相談室生徒の割合を昨年度より低くする。 ○スクールカウンセラー等を活用した研修会を実施する。
		○小学校および家庭・地域との連携推進	○学力向上・生活習慣改善についての小中連携の会議を年間3回以上実施する。 ○「学校評価」アンケートにおいて、「学校生活が楽しい」と答える生徒の割合が昨年度を上回る。
2～3月			
年度末評価			評価
(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			
		・各教科の授業において本時の「めあて」を明示するとともに、「振り返り」活動の充実を図る。 ・互見授業期間だけでなく、普段の授業参観も活発に行うことで、成長し続ける意欲を持った教師集団を作る。 ・生徒が主体となる授業づくりができるような校内研修を充実させ、授業力の向上に向けた研究に取り組む。 ・学習理解を支援するICT機器を活用した授業実践を行う。	
		・家庭学習の定着を図るため、「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習時間のめやす等を明示し、生徒が積極的に取り組める環境を整える。 ・各教科で計画的に家庭学習の課題を与え、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化のさらなる充実を図る。 ・通信や懇談等を利用して各家庭への啓発を行う。	
		・定期考査前に学習計画を立てさせ、効率的な学習方法を身に付けさせる。 ・テスト1週間前の放課後やノー部活デーの木曜日に学習相談を充実させ、基礎学力の向上に取り組む。 ・教育相談週間を実施し、学習や生活に関わる不安や悩みの解消に努め、個々の生徒理解を図る。 ・がんばりタイムの実施により、一人で課題に取り組むことが困難な生徒への支援を行う。	
		・生徒会の図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、積極的な図書館の活用を進める。 ・教科授業による調べ学習やビブリオバトル等の機会を設け、読書活動を推進する。 ・1、2年は朝の10分間読書を継続して行い、読書習慣の定着を図る。 ・さんだっこの読書通帳を活用する。	
		・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子どものサポーター等と連携し、保護者や地域と協働しつつ、学校に適切な生徒の学習を支援する。 ・スクールカウンセラー等の専門家を活用した研修会を実施する。	
		・授業参観を含めた学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。 ・学習規律の小中で統一した指導を協議し、共通理解を図る。 ・入学説明会の日に、小学校6年生を対象に体験授業等を行う。 ・中学生の地域行事への参画、および地域貢献活動やボランティア活動を積極的に進める。	